



新連載

第1

回

海草支部

和歌山市支部

那賀支部

伊都支部

有田支部

紀州さんぽ数珠つなぎ

日高支部

田辺支部

串本支部

新宮支部

「下駄市」と「泣き相撲」

今月号から始まります「紀州さんぽ数珠つなぎ」トップバッターの海草支部からは夏と秋の訪れを告げる伝統行事を二つ紹介します。

漆器の街として名高い海南市黒江地区。今も残る古い町並みは訪れる人をあたたかく迎えてくれます。この黒江地区で年に一度、お盆の期間に開催されるお祭りをまず紹介します。「下駄市」と呼ばれるこのお祭りは江戸末期から約100年続く伝統的なお祭りです。祭りの名前の由来は古く、黒江地区で働く職人が、盆に里帰りする際、主人に新しい下駄を用意してもらう習慣から同地区に下駄を販売する店が集まって来たことに由来します。

お祭り当日は川端通り300メートルを交通規制し露天商や漆器、家庭日用品など約150の露天が並び、そのうち



下駄を販売するお店は約10店舗。お盆の帰省に伴い当日は2万人程の来客があります。最近では若い人でも浴衣を着る人が多く、下駄の存在も見直されています。お気に入りの浴衣に身を包んで、浴衣に似合う1足を見つけるというのもいいのではないのでしょうか。海南に夏の訪れを告げる貴重な伝統行事です。

この黒江地区には古い町並みはもちろんのこと、地酒黒牛の酒造資料を展示する、温故伝承館。その販売を行う黒牛茶屋。漆器の展示・販売、漆器作りが体験できるうる

わし館、木地屋、器楽屋、黒江ぬりもの館など。また県内最古の枯山水が残る浄国寺など見所がたくさんあります。下駄市に合わせてぜひ一度黒江地区を散策してみてください。



続いてもう一つは海南市下津町にある山路王子神社で古くから行われ「泣き相撲」の愛称で親しまれている行事です。正式には「奉納花相撲」と呼ばれているこの行事は江戸中期から行われ子供の無病息災を願い、生後4ヶ月から4歳までの男の子だけを対象とされ、赤いふんどしをつけて介添い人に抱えられた子供が相撲をとります。交互にあおむけに倒され仲良く1勝1敗となり、「土俵の土を背に付けると元気に育つ」と言われ毎年多くの参加者が集います。また泣き声大きいほど豊作になるとも言われ、相撲が行われる日は静かな山あいも訪れた参加者で終日歓声がこだまします。秋の訪れを垣間みるこの伝統行事、県の無形民族文化財にも指定されています。

こういった伝統行事がその地域毎に数多く残っています。季節の訪れを感じると共にその歴史に触れる。そうすることで自分の住む町により愛着が沸き、強いて地域活性化にも繋がればと思います。近くに訪れた際、タイミングが合えばぜひ皆様もこのにぎやかな行事を覗いて下さい。

それでは次号、和歌山市支部さんお願いします。

海草支部 東端秀典